

ALLEN & HEATH

QU

CHROME EDITION



スタートガイド

ファームウェアバージョン V1.9



ⓘ 作業を開始する前に、ALLEN & HEATH ウェブサイト (www.allen-heath.com) で最新の Qu ミキサーファームウェアをご確認ください。

資料番号：AP10025

■安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

警告

- 水に入れたり、ぬらしたりしないでください。火災や感電の原因になります。
- AC100V 50/60Hzの電源で使用してください。これ以外の電源では、火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源コードを使用してください。これ以外のものを使用すると火災の原因となります。
- 付属の電源ケーブルを他の製品に使用しないでください。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因になります。電源コードが傷んだら（断線や芯線の露出など）、直ちに使用を中止し販売店に交換をご依頼ください。
- 水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災や感電の原因となります。
- 万一、落したり筐体を破損した場合は、直ちに使用を中止し、修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグに触れないでください。感電の恐れがあります。
- 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。

注意

- 不安定な場所に設置しないでください。落下によるけがの原因となります。
- 以下のような場所に設置しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・湿気の多い場所
 - ・温度の特に高い場所、または低い場所
 - ・ほこりの多い場所
 - ・振動の多い場所
- 機器をラックに設置する場合は、必ず専用のラックマウント金具（オプション）を使用し、重量を支えるために全てのネジをしっかり固定してください。落下すると、けがや器物を破損する原因となります。
- 配線は、電源コードを抜いてから説明書に従って正しく行ってください。電源コードを差し込んだまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 電源を入れる前に、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となります。
- 機器の移動は、電源プラグをコンセントから抜き、他の機器との接続を全て外してから行ってください。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときに、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■はじめに

このたびは本製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。

まずこちらの取扱説明書をお読みいただき、性能をご理解いただいた上で用途に応じた最適な使用方法をお探しくささい。

保証について

- 保証書は必ず「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名/所在地」の記入をご確認いただき、製品とともにお受け取りください。お買い上げ日より1年間は保証期間です。保証書記載事項に基づき、無償修理等を保証させていただきます。修理等はお買い上げの販売店までご依頼ください。
- お買い上げ時に「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名/所在地」が正しく記入されていない場合は、保証書が無効になり、無償修理を受けられないことがあります。記載内容が不十分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。
- 改造など通常の使用範囲を超えた取扱いによる故障や、設計・製造以外の要因で起きた不都合は期間内であっても保証の対象外となります。

故障かな？と思われる症状が出たときには

こちらの取扱説明書をもう一度お読みになり、接続や操作などをご確認ください。それでも改善されないときはお買い上げの販売店までお問い合わせください。調整・修理いたします。

重要: 開始前にお読みください

安全上のご注意

作業を開始する前に、本書冒頭の「安全上のご注意」をお読みください。ご自身とオペレーター全員の安全のために、すべての指示に従い、本書と機器パネルに印刷されたすべての警告に注意してください。

システムオペレーティングファームウェア

Qu ミキサーの機能は、実行するファームウェア(オペレーティング・ソフトウェア)により決まります。ファームウェアは、新しい機能の追加や改善のため、定期的に更新されます。本書のリリース時のファームウェアバージョンは、表紙に記載されています。

最新のファームウェアは、Allen & HeathのWebサイトからダウンロードできます。USBキーに転送してから、ファームウェアアップデートユーティリティを使用してQuミキサーにロードしてください。

- **Quファームウェアの最新バージョンについては、Allen & Heathのウェブサイトを参照してください。**

ソフトウェア使用許諾契約

本製品とソフトウェアを使用することで、関連するエンドユーザーライセンス使用許諾契約の条項(EULA)に従うことに同意するものとし、その条項はAllen & Heathのウェブサイト(www.allenheath.com/legal)に記載されています。ソフトウェアのインストール、コピーまたは使用することで、EULAの条件に従うことに同意したとみなされます。

詳細な情報

詳細な情報、技術情報は、Allen & HeathのWebサイトを参照してください。またサイト内に開設しているデジタルコミュニティに参加し、他のQuユーザーと知識や情報を共有することも可能です。

1. 梱包内容



Qu ミキサー

安全上のご注意、マニュアルダウンロードのご案内

- 作業を開始する前に必ず本書をお読みください。

電源ケーブル

オプション／アクセサリ（別売）

リモート AudioRack
LAN ケーブルによる dSNAKE デジタル・リモート・オーディオの使用が可能です（推奨ケーブル：CAT5e 以上、STP/FTP）。

AR2412
24 マイク／ライン入力、12 ライン出力
製品名：AR2412

AR84
8 マイク／ライン入力、4 ライン出力
製品名：AR84

LED コンソールライト
18" L 型グースネック 4 ピン XLR
（ディマー内蔵）
製品名：LED Lamp-X

Qu-16 キャリーバッグ
製品名：AP9931/QU-16 用キャリーバッグ

Qu-16 用 19 インチラックイヤーキット
Qu-16 を標準 19 インチラックまたはフライトケースにマウントできます。
製品名：QU-16-RK19X

Cat6 ケーブル
dSNAKE リモートオーディオ用
AH10884/CAT6 ケーブル 20m
AH10885/CAT6 ケーブル 50m：ドラム付き
AH10886/CAT6 ケーブル 80m：ドラム付き
AH10887/CAT6 ケーブル 100m：ドラム付き

ダストカバー
AP9262/QU-16 用ダストカバー
AP9458/QU-24 用ダストカバー
AP9639/QU-32 用ダストカバー

ME パーソナルミキシングシステム
ME-1 パーソナルミキサー
ME-U 10 ポート PoE ハブ

Qu-Pad アプリ (iPad 用)
Qu-You アプリ (iOS / Android デバイス用)
Qu-Control アプリ (iOS デバイス用)
Apple Store / Google Play から入手可能

オンライン製品登録：www.allen-heath.com/register

2. 目次

1.	梱包内容.....	4
2.	目次.....	5
3.	Qu シリーズの概要.....	6
3.1	Qu モデル間の違い.....	7
4.	設置.....	9
5.	背面パネル	10
5.1	ミキサーの接続と電源投入	10
6.	前面パネル	11
7.	シグナルプロセッシング.....	12
8.	ワイヤレス制御	13
9.	Qu-Start.....	14
9.1	作業開始前のチェック項目	14
9.2	スタートポイントの設定.....	14
9.3	セッションに向けたミキサーの準備	15
9.4	プロセッシングおよびミックスパラメーターのスタートポイントの設定	17
9.5	設定の保存	18
9.6	Qu-16 / Qu-24 / Qu-32 によるミキシング.....	19
9.7	セキュリティとユーザーアクセス権限	20
9.8	USB レコーディング／プレイバック	21
9.9	その他の機能.....	22
10.	ミキサーのリセット	23
10.1	Reset Mix Settings：ミキシングのスタートポイント.....	23
10.2	システムハードリセット：全て消去	23

本書について

本書は、Allen & Heath Qu-16 / Qu-24 / Qu-32 デジタルミキサーのスタートガイドです。

Qu ミキサーのセットアップおよびミキシング機能の詳細については、『**Qu シリーズリファレンスガイド**』を参照してください。

注意

このガイドは Qu ファームウェア **V1.9** のスタートガイドです。ファームウェアの最新バージョンおよびこのガイドの最新版については、ALLEN & HEATH ウェブサイトを参照してください。

Qu-Pac、**Qu-SB**、および **AR2412 / AR84 / AB168** リモート AudioRack の詳細については、それぞれの取扱説明書を参照してください。

3. Qu シリーズの概要



Qu シリーズは、タッチスクリーン、チャンネル毎のモーターフェーダー、ノブなどを備え (Qu-SB は除く)、ALLEN&HEATH の伝統や経験に基づいたアナログミキサーのように、直観的なユーザー・インターフェースを持つデジタル・ミキシング・コンソールです。

入出力、FX プロセッシングのパッチ、内蔵されたオートマチック・マイク・ミキシング (AMM)、USB ストリーミングとハード・ドライブへのダイレクトなマルチトラック録音、デジタル・スネークの対応 (dSNAKE)、iPad によるリモートコントロールなど、全ての設定のトータル・リコール能力を備えています。

以下の 5 つのモデルが用意されています。

Qu-16: 16 系統のマイク入力と 3 系統のステレオライン入力を備えたラックマウント対応コンパクトミキサー

Qu-24: 24 系統のマイク入力と 3 系統のステレオライン入力に加え、ステレオグループとマトリクスを搭載し、ソフトキーを追加した中型モデル

Qu-32: 32 系統のマイク入力と 3 系統のステレオライン入力に加え、ステレオグループを 2 系統追加した大型モデル

Qu-Pac: Qu-32 のラックマウント対応バージョン (フェーダー非搭載。iPad と前面パネルでコントロール)

Qu-SB: Qu-32 のラックマウント対応バージョン (フェーダーと前面パネルコントロール非搭載。iPad でコ

ントロール) Qu-16	Qu-24	Qu-32
<ul style="list-style-type: none">• 16 マイク/ライン入力• 3 ステレオライン入力• 24 ソース・ミックス• 12 ミックス (4 モノ、3 ステレオ、LR)• 4 FX (2 センドバス)• 4 ソフトキー• 22in/24out の USB ストリーミング	<ul style="list-style-type: none">• 24 マイク/ライン入力• 3 ステレオライン入力• 32 ソース・ミックス• 12 ミックス (4 モノ、3 (5) ステレオ、LR)• 4 FX (4 センドバス)• 10 ソフトキー• 30in/32out の USB ストリーミング• 2 ステレオグループ (mix mode)• 2 ステレオマトリクス	<ul style="list-style-type: none">• 32 マイク/ライン入力• 3 ステレオライン入力• 40 ソース・ミックス• 12 ミックス (4 モノ、3 (7) ステレオ、LR)• 4 FX (4 センドバス)• 10 ソフトキー• 32in/32out の USB ストリーミング• 4 ステレオグループ (mix mode)• 2 ステレオマトリクス

全モデル共通

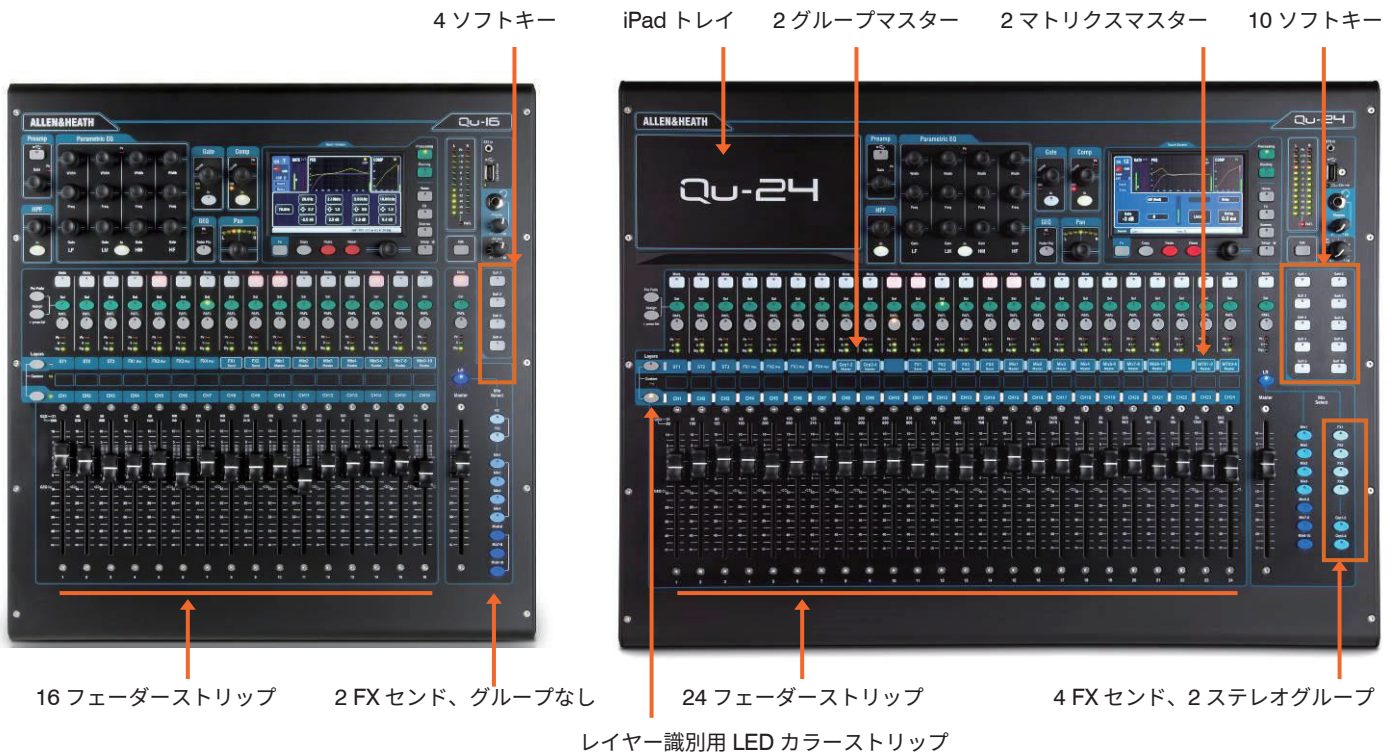
- AES デジタル出力、ALT 出力、2TRK 出力
- トークバックマイク入力
- dSNAKE リモート用 LAN ケーブル接続ポート (オプションの **AudioRack** または ME-1 パーソナルモニターミキサー接続用)
- 4 ミュートグループ、4 DCA グループ
- 4 内蔵 FX (エフェクトユニット)
- 100 個のシーンメモリー (チャンネルセーフ/リコールフィルター搭載)
- オートマチックマイクミキサー (AMM)
- チャンネルダッキング

3.1 Qu モデル間の違い

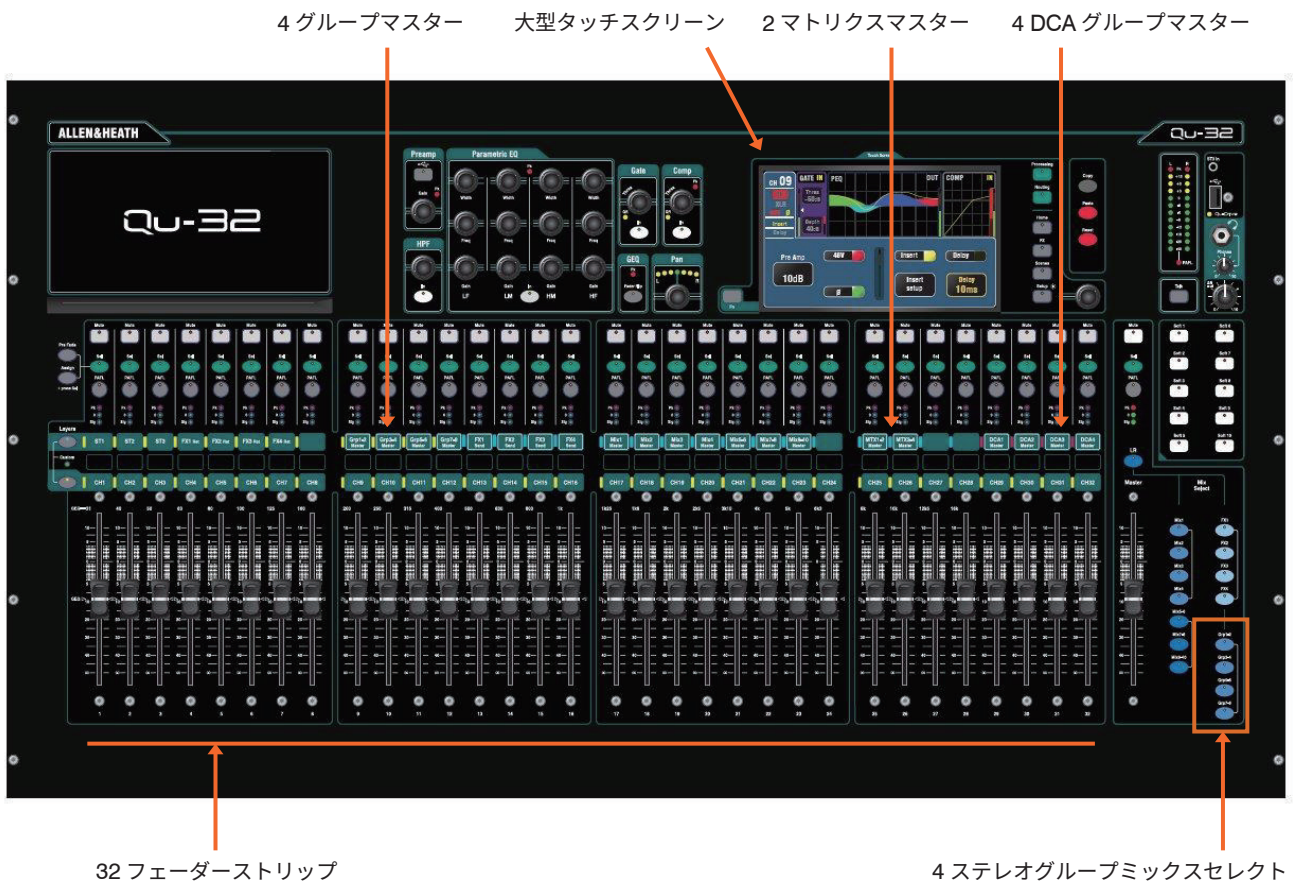
Qu シリーズの操作方法およびタッチスクリーンの構造は全モデル共通です。大型モデルはグループとマトリクスを備えています。その他の違いは次のとおりです。

Qu-16

Qu-24



Qu-32



Qu-16 16 マイク/ライン入力



22in/24out の USB オーディオストリーミング

Qu-24 24 マイク/ライン入力



30in/32out の USB オーディオストリーミング

4 グループ出力 マトリクス出力

Qu-32 32 マイク/ライン入力



32in/32out の USB オーディオストリーミング

8 グループ出力

マトリクス出力



AudioRack : Qu シリーズはオプションの ALLEN & HEATH AB168、AR2412、AR84 AudioRack に対応しています。AudioRack は、最長 100m の dSNAKE デジタルスネークケーブルでミキサーと接続することにより、マイク入力やライン出力をリモート。コントロールできます。1 台のミキサーに 2 台まで接続可能です。※ 2 台目は 1 台目の「エキスパンダー」として使用できます。

❗ AR2412 は、Qu システムではエキスパンダーとして使用することはできません。

Scene (シーン)、Library (ライブラリー)、Show (ショー) のデータメモリー : Qu ミキサーメモリーは全て互換性があります。あるモデルで作成したファイルは USB キー経由で転送し、別のモデルで読み込むことができます。大型モデルのファイルを Qu-16 にロードする際、大型モデル固有の機能は無視されます。大型モデルに Qu-16 のファイルをロードした場合は、大型モデル固有の機能は工場出荷時設定にリセットされます。

❗ 互換性を維持するには、全ての Qu ミキサーが同じバージョンのファームウェアで動作していることを確認してください。最新のファームウェアについては、ALLEN & HEATH ウェブサイトを参照してください。

USB オーディオ : あるモデルでフォーマットした USB メモリーは、別のモデルで使用できます。ステレオとマルチトラックの Qu-Drive レコーディングは互換性があります。USB B オーディオストリーミングは互換性がありますが、Qu-16 は 22in/24out、Qu-24 は 30in/32out、Qu-32 および Qu-Pac は 32in/32out であることに注意してください。

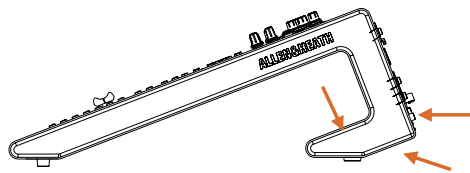
ファームウェア : バージョンは同じでも、モデルごとに異なるファームウェアが必要です。ALLEN & HEATH ウェブサイトからファームウェアをダウンロードする際は、各機種ごとのファームウェアデータのファイルをご使用ください。ファームウェアアップデート手順は全モデル共通です。

Qu-Pad / Qu-Control / Qu-You アプリ : Qu シリーズの全モデルに対応しています。アプリにログインする際、モデルが識別され、適切なコントロールが読み込まれます。Qu-Pad および Qu-Control は iOS デバイスに対応し、Qu-You は iOS および Android デバイスに対応しています。

❗ アプリのバージョンが使用するミキサーのファームウェアのバージョンに対応していることを確認してください。

4. 設置

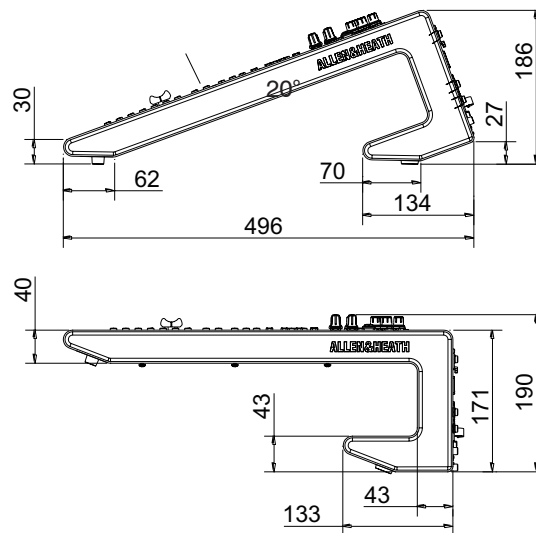
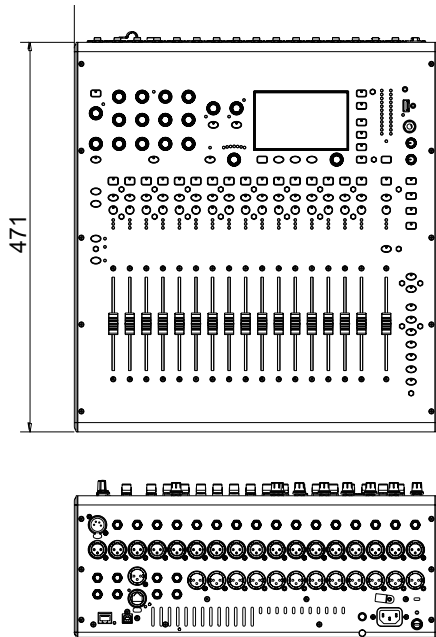
Qu ミキサーは平らな面に置いて使用してください、フタを外したフライトケースに置いたまま使用する事も可能です。Qu-16は、標準 19 インチラックまたは台座にマウント可能です。Qu のユニークな形状は温度管理に役立ち、通常の範囲内であれば冷却ファンが不要です。また、本体底面下のスペースはデスクの面積が限られている場合に物を置く場所としても便利です。



通気： 本体背面および底面の周囲の通気を妨げないようにする必要があります。フライトケースに収納/設置して使用する場合、これらの周囲に十分なスペースを確保してください。

❶ 通気スロットを塞いだり遮ったりすると、ミキサーが過熱して損傷する恐れがあります。

Qu-16 = 440 Qu-24 = 632 Qu-32 = 850mm



Qu-16 のラックマウントオプション

オプションとして、Qu-16 を標準 19 インチラックにマウントするためのパーツキットが用意されています。

Qu-16 用ラックマウント・キット 製品名：
QU-16-RK19X

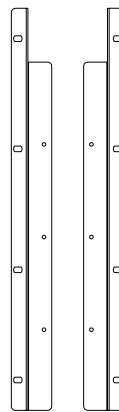
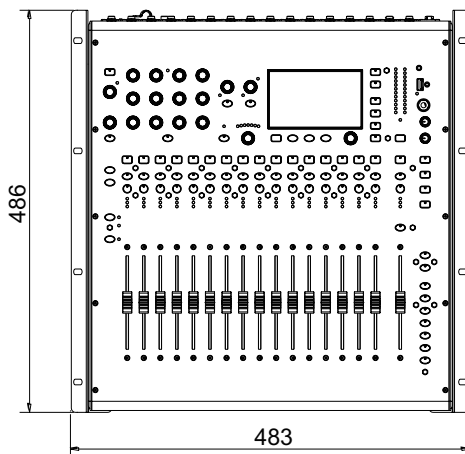
ラックイヤーのマウント寸法は 11U です。

❶ 電源や各信号のケーブルを接続するコネクタ接続面側には、11U に加えて十分なスペースを確保する必要があります。

❶ 本体コネクタ部分や接続ケーブルに過度な負荷がある場合、本体及び接続機器の故障や事故の原因となる場合がありますのでご注意ください。

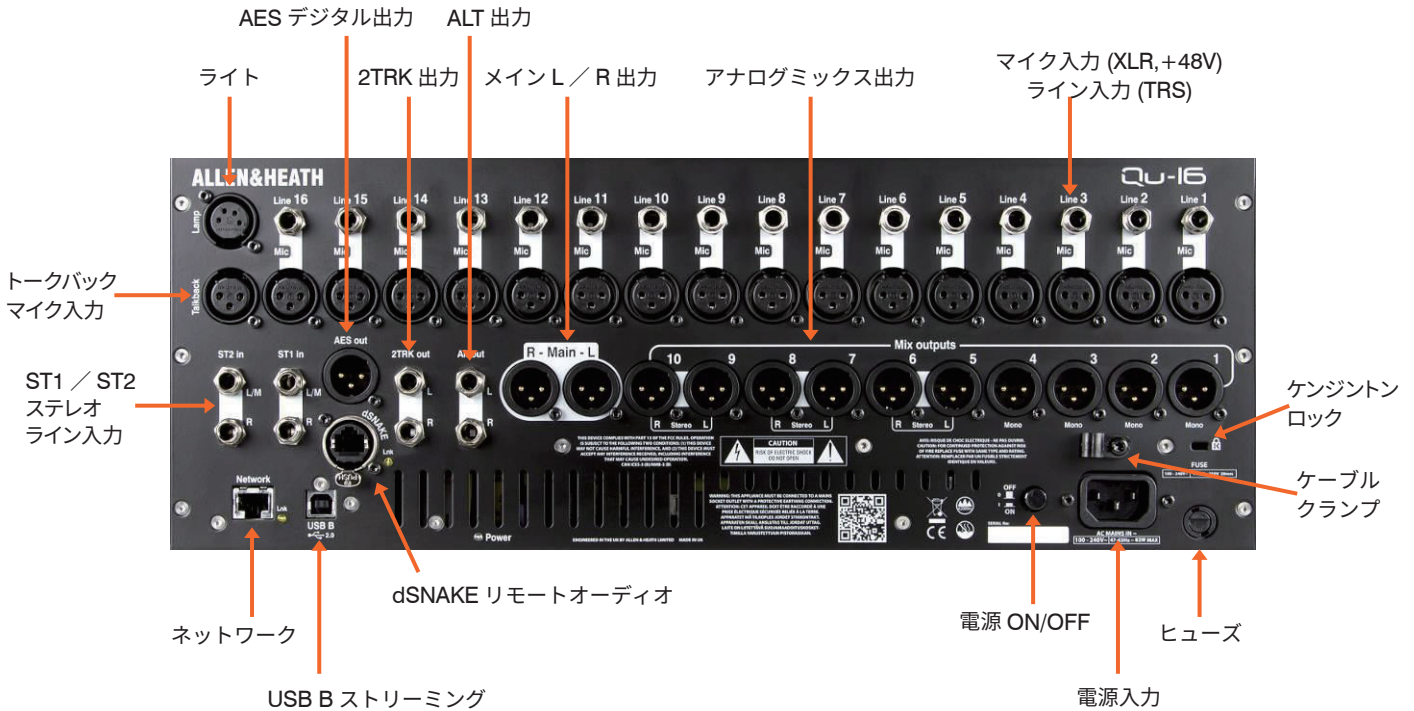
ラックイヤーは、プラスチックサイドトリムを装着したまま取り付けることができます。T20 トルクスドライバーを使用して、付属の M4x8 ネジ (部品番号: AB0332) 6 個でミキサーのベースに固定します。

EIA19 インチラックにマウントする場合は、ラックの規格に合ったネジを用意し、ラックイヤーに空いている 8 か所の穴を使用して固定してください。表面を保護したい場合はプラスチックワッシャーなどを使用するとキズが付きにくくなります。



5. 背面パネル

下の図は Qu-16 の背面パネルです。Qu-24 と Qu-32 も、グループ出力とマトリクス出力を備えていることを除いてほぼ共通です。

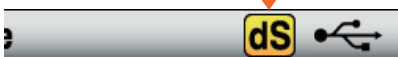


5.1 ミキサーの接続と電源投入

AudioRack を使用する場合、dSNAKE ケーブルで接続します。ケーブルは、最長 100m の STP (シールドツイストペア) Cat5e 以上を使用してください。フォイルシールドと編組シールドを両方備えたケーブルは干渉に強く、概して丈夫です。芯線が「より線」のケーブルは、ねじったり繰り返し巻いたりしても比較的破損しにくい構造です。ケーブルは dSNAKE ポートに接続します。2 台目の AudioRack を接続する場合は、1 台目の EXPANDER ポートに接続してください。※ 2 台目に AR2412 を接続する事は出来ません。



AudioRack が認識されると、画面ツールバーに dSNAKE アイコンが表示されます。



❗ **重要**：作業を開始する前に、付属の『安全上のご注意』を必ずお読みください。

❗ 突然大きなノイズが出るのを避けるために、接続されたパワーアンプやラウド・スピーカーの電源が入った状態でのミキサーの電源 ON/OFF 操作は行わないでください。常にアンプの電源 ON は最後に、電源 OFF は最初に行ってください。

電源の投入：ON/OFF スイッチを押します。数秒で起動し、前回の電源 OFF 時の設定が読み込まれ、LR ミックスが選択された状態でそのプロセッシングが表示されます。

電源の切断：まず「Home」画面を開き、「Shut Down」にタッチします。パラメーターの保存や USB データの転送／記録などの処理が安全に完了します。完了したら ON/OFF スイッチを押して本体の電源を OFF にします。

6. 前面パネル

下の図は Qu-16 の前面パネルです。Qu-24 および Qu-32 は Qu-16 に似ていますが、より多くのフェーダー ストリップとソフトキー、グループ・ミックスセレクトキー、および iPad 用のトレイが追加されています。



フェーダーストリップ：入力／マスターチャンネルのレベルとプロセッシングにアクセスします。モーターフェーダーを採用しており、**Mix** キーを選択するとミックスまたは FX へのセンドレベル位置に移動します。GEQ Fader Flip を押すと、フェーダーでグラフィック EQ を表示し調整できます。

① **Mix** キーをオフにするか、LR を選択してフェーダーのメインミックスに戻ることを忘れないでください。

ミックスアサイン：**Assign** キーを押しながらストリップの **Sel** キーを押すと、ミックスへのルーティングの ON/OFF が切り替わります。**PreFade** キーを押しながら **Sel** キーを押すと、チャンネルセンドのプリフェーダー／ポストフェーダーが切り替わります（キーが点灯しているとプリ・フェーダーです）。マスターstriップの **Sel** キーを押すと、全てのチャンネルのプリフェーダー／ポストフェーダーのアサインまたは設定が可能です。

Layers：2 個のレイヤーキーがあり、各ストリップの機能がパネル上に表示されています。両方のキーを同時に押すと **カスタムレイヤー** が選択されます。カスタムレイヤーには、チャンネル、マスター、および DCA を自由に組み合わせてアサインできます。カスタムレイヤーの機能を識別するためのラベル用スペースが用意されています。

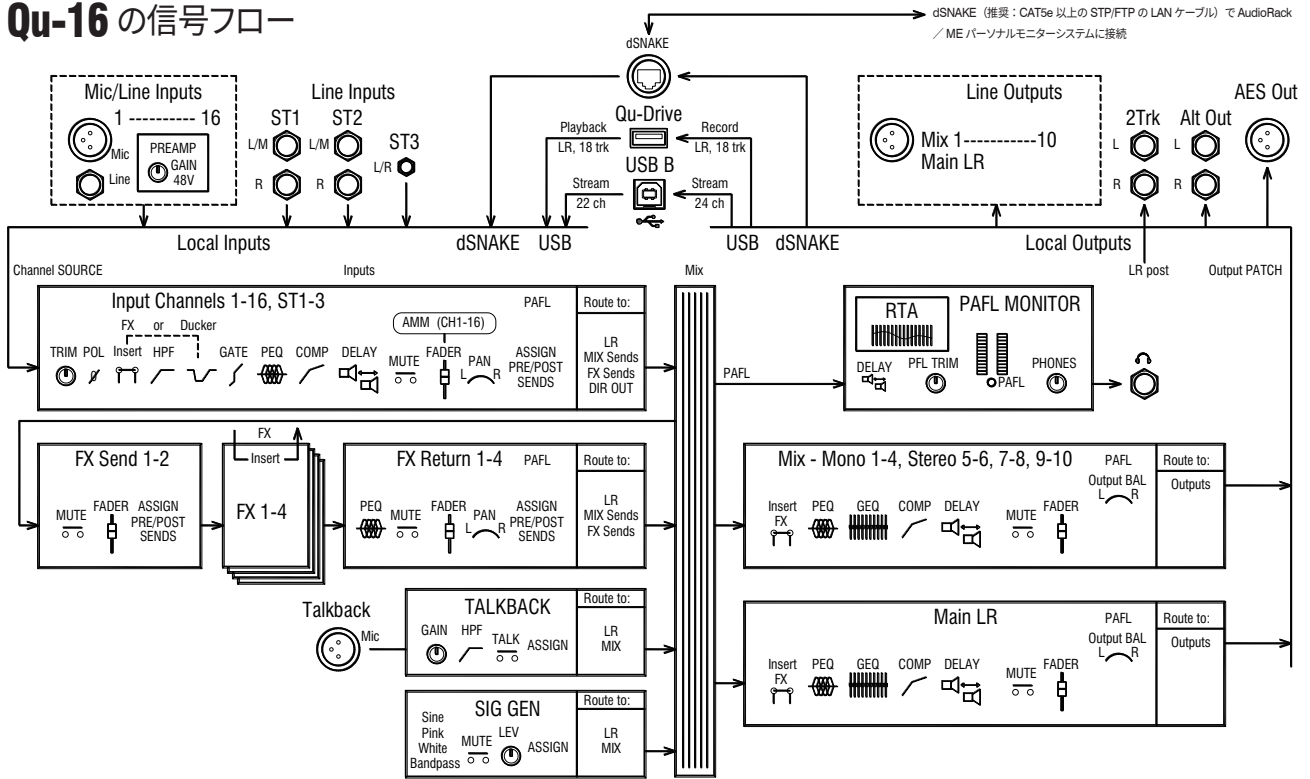
Copy / Paste / Reset：**Copy** キーを押しながら、**Sel** または **Mix** キーを押すか「**Processing**」画面の上部にタッチすると、関連するプロセッシングまたはミックスパラメーターがコピーされます。次に、**Paste** キーを押しながらチャンネルまたはミックスのストリップの **Sel** または **Mix** キーを押すと、そのチャンネルまたはミックスに貼り付けられます。**Reset** キーを押しながらキーを押すと、パラメーターが工場出荷時のデフォルト設定にリセットされます。詳細については、このガイドの後半で説明します。

Fn キー：Fn キーを押して現在選択中の画面のオプションページを開きます。機能は下部ツールバーに表示されます。例えば、「**Processing**」画面の「**Preamp**」ページから入力ソースのパッチ設定にアクセスしたり、「**Routing**」画面から Mute または DCA グループのアサインにアクセスすることができます。

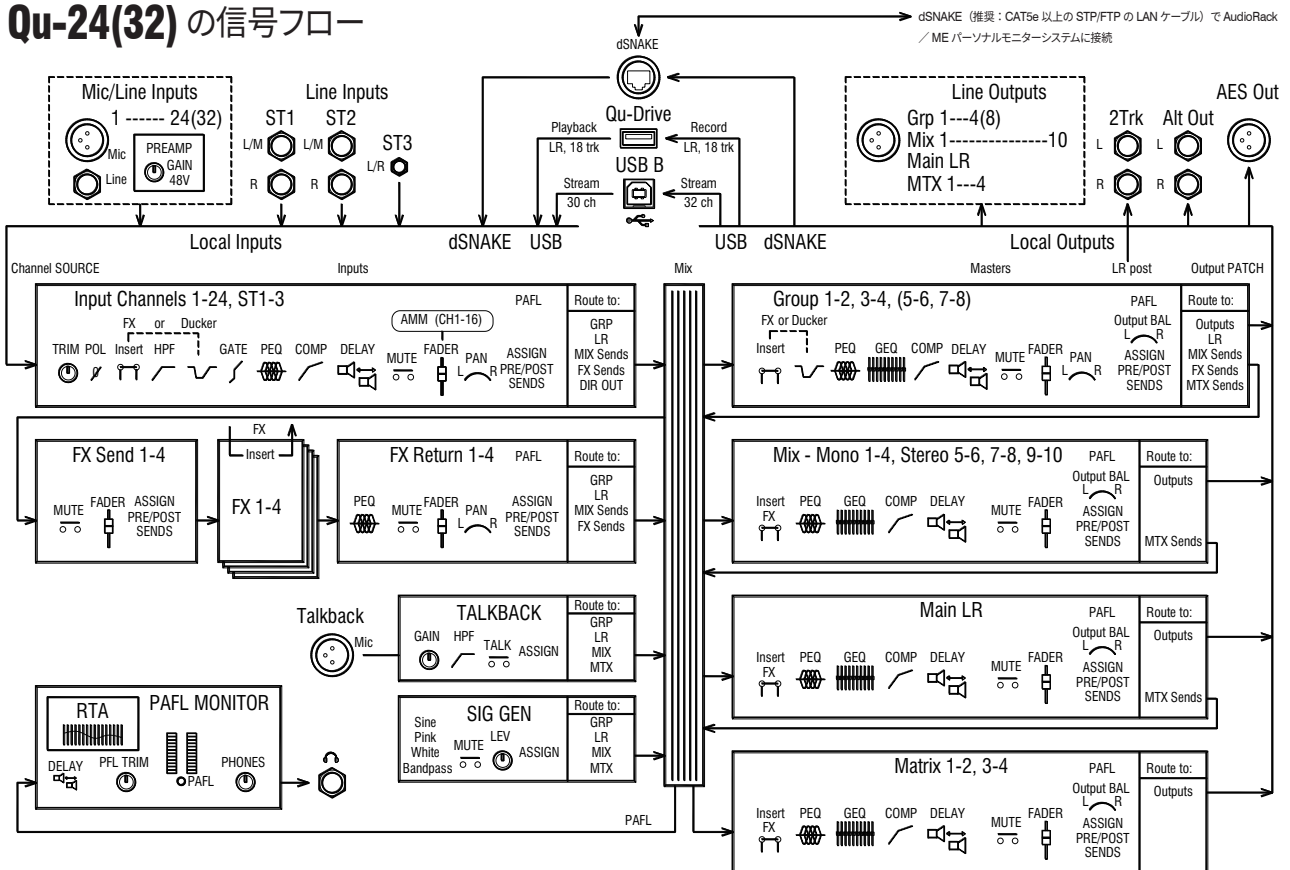
7. シグナルプロセッシング

下の図は、Qu の信号フローとプロセッシングを示しています。Qu-24 と Qu-32 は、グループとマトリックスのミックスが含まれます。全モデル共に先頭の 16 チャンネルにオートマチックマイクミキサー（AMM）を搭載しています。詳細な図や情報については、『Qu シリーズリファレンスガイド』を参照してください。

Qu-16 の信号フロー



Qu-24(32) の信号フロー



8. ワイヤレス制御

iOS デバイス (iPad、iPhone、iPod Touch) 用の ALLEN & HEATH Qu-Pad / Qu-Control / Qu-You アプリは、App Store から無料で入手できます。Qu-You は Android デバイス用も用意されています。

Qu ワイヤレスネットワークのセットアップ：最適なパフォーマンスを得るには、自動チャンネル選択機能を備えたデュアルバンド (2.4 / 5GHz) ワイヤレスルーター (ワイヤレスアクセスポイント) を使用してください。人や機器などの障害物を避けるためになるべく高い位置に設置します。柱や壁の後方や金属製の梁の近く、またはスピーカーの上への設置は避けてください。ミキサーの「Setup」 > 「Network」画面を開き、DHCP が有効になっていることを確認します。



① Qu ミキサーファームウェアとアプリのバージョンは、互換性が必要です。例えば、V1.9 アプリは V1.8 ファームウェアでは動作しません。予期しないバージョンの不一致を避けるために、デバイスの「自動アップデート (日本語版) / auto update (英語版)」の機能はオフにしておくことをお勧めします。最新の Qu ミキサー用のファームウェアは ALLEN&HEATH のウェブサイト (www.allen-heath.com) よりダウンロードできます。

① Qu ミキサーの不正な操作を防止するために、ルーターのパスワードを設定してワイヤレスネットワークを保護することをお勧めします。

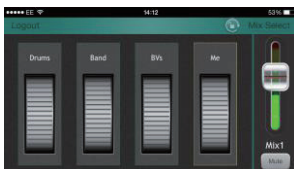
① ワイヤレスデバイスはネットワーク設定を記憶します。先々、ゲストエンジニアが現場に持ち込んだデバイスを使用して、パスワードなしでワイヤレスネットワークにアクセスするのを防止するには、そのエンジニアのデバイスの「設定」 > 「Wi-Fi」メニューでそのワイヤレスネットワークを選択し、「このネットワーク設定を削除」機能を使用します。

ワイヤレスネットワークへの接続：ルーターの電源を入れます。接続が確立されるまで数分待ちます。ワイヤレスデバイスの「設定」画面を開き、ミキサーの Wi-Fi ネットワークを探し、接続します。

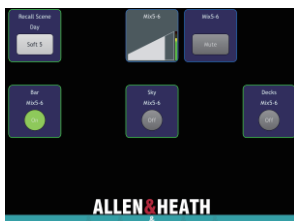
アプリの起動：アプリを起動すると「Login」ページが開きます。Qu ミキサーが Wi-Fi ネットワーク上で認識されるとリストに表示されます。これを選択し、「Connect (接続)」にタッチします。ミキサーにログインパスワードが設定されている場合、入力を求められます。詳細については、アプリのヘルプを参照してください (アプリのヘルプマニュアルは「ログイン」または「Setup」ページの「?」ボタンにタッチすると表示されます)。



Qu-Pad は、室内やステージ上を自由に歩きながら、必要に応じてサウンドを調整できるエンジニア用ミキシングツールです。Qu-Pad は、Qu ミキサーのユーザープロフィールおよび権限設定に従います。



Qu-You は、ステージ上のミュージシャンがパーソナルモニターミックスを調整できるようにするアプリです。その間も、エンジニアは Qu ミキサーで各ミックスを監視し、必要に応じていつでも調整できます。Qu-You ユーザーのパスワードはミキサー側で設定できます。



Qu-Control は、最大 5 つの画面タブとタブごとに最大 15 個のコントロール「ウィジェット」でカスタマイズ可能なアプリです。ウィジェットには、BGM ソースの選択からマスターゾーンレベル、マイクのページングまで何でも構いません。Qu-Control ユーザーのパスワードはミキサー側で設定できます。

9. Qu-Start

このセクションでは、Qu のセットアップおよびミキシング手順を簡単に説明します。詳細については、このガイドの他のセクションや『Qu シリーズリファレンスガイド』を参照してください。

9.1 作業開始前のチェック項目

Qu ミキサーのファームウェアのバージョン:「Home」画面で現在のバージョンを確認し、ALLEN & HEATH ウェブサイト (www.allen-heath/key-series/qu-series) で最新バージョンを確認します。最新でない場合は「Setup」>「Utility」>「Firmware」画面でダウンロードし、アップデートします。



Qu-Pad / Qu-Control / Qu-You アプリのバージョン:アプリのバージョンは、Qu ミキサーのファームウェアのバージョンは、互換性が必要です。互換性の無いバージョン間では、アプリはミキサーに接続できません。最新のバージョンは常に App Store から無料でダウンロードできます。

ミキサーのファームウェアをアップデートする前にアプリがアップデートされてしまう事を防止するために、iOS デバイスの「自動アップデート (日本語版) /auto update (英語版)」の機能はオフにしておくことをお勧めします。

ネットワークおよび Wi-Fi 設定:ルーター (ワイヤレスアクセスポイント) を Qu の Network ポートに接続します。「Setup」>「Control」>「Network」画面で、DHCP が有効になっていることを確認します。ルーターにパスワードが設定されていることを確認します。ネットワークは、建物内の他の Wi-Fi ネットワークから独立させてください。

Current User (現在のユーザー):「Home」画面で現在のユーザーを表示します。Qu には 3 種類のユーザープロファイルが用意されています。Admin ユーザーは全項目にアクセスでき、通常はミキサーの所有者またはシニアエンジニアに割り当てます。Standard および Basic ユーザーは、Admin ユーザーによってアクセス制限が設定されています。パスワードの設定も可能です。

Calibration (キャリブレーション / 校正):「Setup」>「Utility」>「Calibration」画面で、モーターフェーダーとタッチスクリーンをキャリブレーションできます。

Dimmer (ディマー):タッチスクリーンおよびキーイルミネーションの明るさを調整するには、Setup キーを押しながらロータリーコントロールを回します。Qu は最大の明るさで起動します。

9.2 スタートポイントの設定

ミキサーを完全にリセットするには、起動時にシステムハードリセットを実行します。この操作は絶対に必要な場合に限ってください。実行すると全てのメモリー (シーン、ユーザーライブラリー、ユーザープロファイル、パスワード) が消去され、すべてのデータが工場出荷時のデフォルト設定にリセットされます。



新しいセッションやイベントのセットアップ用のスタートポイントとしてミキサーを設定するには、「Scenes」ページの「Reset Mix Settings」機能を使用します。これは、現在のミックスパラメーターを全て工場出荷時設定にリセットする特別なシーンで、メモリーとシステム設定 / プリファレンスには影響しません。

このリセットは、Global Scene Filter やチャンネル Safes の影響を受けず、むしろ Global Scene Filter もリセットされ、Safes も消去されます。「Reset Mix Settings」ボタンを 2 秒間長押しした後、確定します。

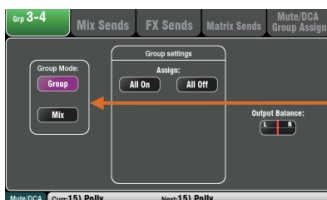
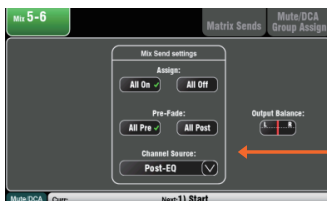
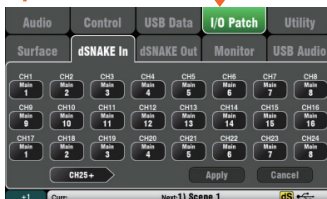
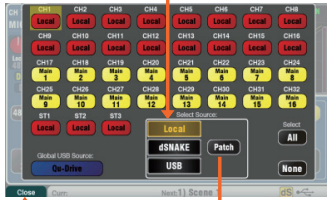
好みのスタートポイントを設定するには、独自のテンプレート シーンをセットアップして保存し、これを USB キーに保存して、今使用している Qu ミキサーや他の Qu ミキサーにロードすることができます。

9.3 セッションに向けたミキサーの準備

タッチして名前を入力



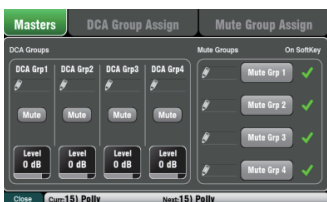
入力端子をパッチ



前面パネルまたは背面パネルを表示



FXプリセットを選択



チャンネル名およびマスター名の入力：回線表や各種資料に従い、ミキサーの「**Processing**」画面でチャンネル・ネームを入力します（最大6文字）。チャンネル・ネームの表示部にタッチするとキーパッドが開きます。Qu-Pad アプリを使用して名前を入力することも可能です。

チャンネルソースの選択：モノラル/ステレオチャンネルごとに、Local（背面の入力端子）、dSNAKE（リモート接続の AudioRack）、USB（プレイバック用の USB キー）の3つのソースからいずれかを選択できます。デフォルトでは Local 入力が入力パッチされています。

チャンネルソースを変更するには、入力の「**Processing**」画面で **Fn** キーを使用して「**Source**」ページを開きます。

対応する各種リモート Audio Rack 機器を接続している場合は「dSNAKE」を選択します。Audio Rack の端子のマッピング（チャンネルの割り当て構成）を別のチャンネルにしたい場合は、「Patch」にタッチして「**Setup**」>「**I/O Patch**」>「**dSNAKE In**」画面を開きます。デフォルト設定ではあらかじめ1対1のマッピングになっています。

USBでのプレイバック音源の入力をする場合は、「Global USB Source」ボタンをタッチすると「Qu-Drive」または「[USB B streaming]」が選択できます。この設定はすべてのチャンネルに反映します、予めご注意ください。

ミックスのルーティングとプリフェーダー/ポストフェーダー設定の確認：ミックス1～10は、プリフェーダーまたはポストフェーダーの設定、チャンネルのアサイン、チャンネルの信号バス内のセンドポイントの選択が可能です。

各ミックスを全て ON または OFF、全てプリフェーダーまたはポストフェーダーに設定する場合、マスターの「**Routing**」画面を使用すればスタートから素早くセットアップできます。

デフォルトは全てプリフェーダーで、全てのチャンネルがアサインされ、センドはポストEQです（コンプレッサーに影響されません）。これはミックスをモニターセンドとして使用する場合に最適です。エフェクトおよびその他のセンドについては、ポストフェーダー/ポストディレイ（全てのプロセッシングの後）に変更可能です。

グループのセットアップ*：グループは、オーディオ・サブグループまたは追加のステレオミックスとして構成できます。例えば、多数のインイヤーモニターを使用する場合などでも使用できます。動作モードの確認または変更はマスターの「**Routing**」画面で行います。サブグループを使用して LR に送る場合、そのグループにアサインするチャンネルの LR ミックスへのアサインを OFF にすることを忘れないでください。

*** Qu-16 はグループとマトリクスを備えていません。**

マトリクスセンドのセットアップ*：「Matrix **Routing**」画面で **Fn** キーを使用して「**Matrix View**」ページを開き、センドレベルとルーティングを設定します。

*** Qu-16 はグループとマトリクスを備えていません。**

FXのセットアップ：「**FX**」画面を開き、4つの内蔵FXユニットをセットアップします。デフォルトの構成では、リバーブとディレイが各1系統（Qu-16）、またはリバーブ2系統とディレイとADT（オートダブルトラックリング：コーラス系エフェクト）エフェクトが各1系統（その他のQuモデル）です。変更するには **Fn** キー「**Library**」ページを開き、それぞれのFXタイプとプリセットを選択して呼び出します。

FXパッチ設定は「**Back Panel**」画面で確認できます。リバーブやディレイなどのエフェクトは、MixからReturnにパッチします。チャンネルまたはミックスにFXをインサートすることもできます。

MUTE / DCAグループのセットアップ：「**Routing**」画面で、**Fn** キーを使用して「**Mute/DCA**」ページを開いて「**Masters**」にアクセスし、グループ名の設定とチャンネルのアサインを行います。Mute Group マスターは、「**Home**」画面からアクセスすることもできます。FXリターンにMUTE / DCAグループをアサインすると、曲間で素早くエフェクトのレベルを下げたりミュートしたりすることができて便利です。

グループミュートをソフトキーにアサインしておけば素早くアクセスする事も可能です。

パッチング：デフォルトでのパッチ設定は、背面のローカル端子とチャンネルのシンプルな 1 対 1 のマッピングであり、典型的な PA アプリケーションに適した出力パッチです。ただし、Qu は柔軟なパッチも可能で、信号を任意にルーティングする事も可能です。



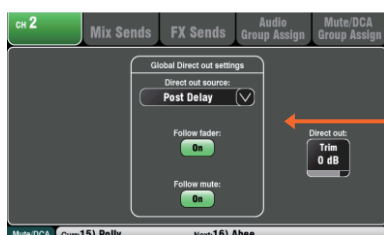
パッチ画面の多くは、Fn キーを「+1 (加算)」として使用して、ソケットの範囲をすばやくステップスルーできるようにします。ほとんどの場合、変更する際は「Apply (適用)」、または「Cancel (キャンセル)」する確認が必要です。

Alt 出力と AES3 デジタル出力のパッチ：「Setup」>「I/O Patch Surface」画面で、Alt 出力と AES デジタル出力のパッチもできます。Alt 出力は録音用のステレオソースや、ゾーン別の出力用に使用すると便利です。フロントパネルのスクリーン・ロータリーで出力コントロールができます。



dSNAKE リモート出力のパッチ：「Setup」>「I/O Patch」>「dSNAKE Out」画面で、Qu に接続されている Audio Rack のいずれかの出力用端子にパッチします。

ダイレクトアウトの用途の選択：チャンネルダイレクトアウトの用途を検討します。例えば、USB レコーディング、ME-1 パーソナルモニタリング、チャンネルダッカーのトリガー、シングルチャンネルの FX などと考えられます。ソースの設定は、任意の入力チャンネルの「Routing」画面で行います。この設定はグローバルに機能するため、全てのダイレクトアウトに影響します。



ME-1 パーソナルモニター (別売) へのパッチ：「Setup」>「I/O Patch」>「Monitor」画面を開き、Qu の出力を ME-1 にパッチします (最大 40ch)。一般的には入力チャンネルのダイレクトアウトを使用します。ダイレクトアウトのおすすめの設定は、post delay (ポスト・ディレイ)、pre fader (プリ・フェーダー)、post mute (ポスト・ミュート) です。

USB 出力のパッチ：「Setup」>「I/O Patch」>「USB Audio」画面で、Qu の出力を Qu-Drive マルチトラックおよび背面パネルの USB B スตรีミングポートにパッチします。これらは同じパッチを共有し、USB スตรีミングは 32 系統の出力を全て使用します (Qu-16 は 24 系統)。Qu-Drive レコーディングは最初の 18 系統の出力から送られ、Qu-Drive ステレオレコーディングは出力 17 と 18 から送られます。



ライブショーのマルチトラックレコーディングでは、ライブミキシングがレコーディングに影響しないようにチャンネルのインサートセンドを使用する方法もあります。スタジオレコーディングやその他の用途では、これをダイレクトアウトに変更することもできます。

Soft Keys (ソフト・キー) へのアサイン：ソフトキーには、ミュート、タップテンポ、シーン、Qu-Drive トランスポートなどの各種機能をアサインできます。アサインは「Setup」>「Control」>「SoftKeys」画面で行います。ロータリーでオプションのリストをスクロールして選択し、「Apply」ボタンにタッチして確定します。

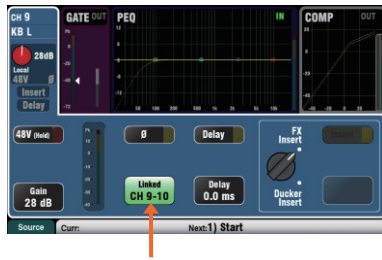


Custom Layer (カスタム・レイヤー) へのアサイン：3 番目のフェーダーストリップレイヤーには、チャンネル、FX、ミックス、DCA、および MIDI セレクトを自由に組み合わせアサインできます。それにより、ショーで使用するチャンネルに素早くアクセスできます。アサインは「Setup」>「Control」>「Custom Layer」画面で行います。Fn キーの「+1」(インクリメントキー)を使うと、アサインを早く加算する事ができます。



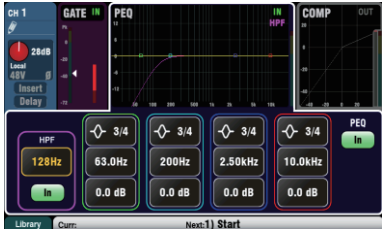
Qu-Pad アプリのカスタムレイヤーへのアサイン：iPad アプリを使用してワイヤレスミキシングを行う場合、最大 3 つのカスタムレイヤーにアサインしてフェーダーストリップとソフトキーに任意の順序で表示することができます。それには上部ツールバーの「Setup」アイコンを選択します。

9.4 プロセッシングおよびミックスパラメーターのスタートポイントの設定



まず、「**Processing**」画面の「Preamp」ページで「**Linked(リンク)**」ボタンを使用して、必要に応じて奇数/偶数チャンネルをステレオペアとしてリンクします。例えばステレオ出力のキーボードやバックিংトラック（カラオケやマイナスワン）のような再生ソースで使います。リンクしたペアの片側チャンネルの Pan を操作すると Width（ステレオワイド）が調整できます。

サウンドチェックを開始できるように入力およびミックスチャンネルのプロセッシングを素早くセットアップするには、いくつかの方法があります。



Processing Libraries (プロセッシングのライブラリー) : 「**Processing**」画面で、**Fn** キーを使用して関連ブロック (PEQ など) の「**Library**」ページを開きます。

ファクトリーライブラリーにはスタートポイントの参考となる典型的なプリセットが用意されています。このライブラリーに上書きをしたり削除することはできません。保存したい場合は**ユーザー・ライブラリー**を使用してください、名称を含む編集が可能です。



Channel Libraries (チャンネルのライブラリー) : このプリセットは、入力チャンネルの全てのプロセッシング (Gate, PEQ, Comp, Delay) を呼び出します。プリアンプの設定 (Gain, Pad, 48V, Polarity) も含めたい場合は「**Recall Preamp**」を ON にします。チャンネルライブラリーには、Link (リンク) と Ducker (ダッカー) の設定は含まれていません。

チャンネル・ライブラリーを使用することにより、チャンネル名さえ設定するだけで、確実に早いサウンドチェックのスタートポイントになります。

Copy(コピー)/Paste(ペースト)/Reset(リセット) : これらのキーは、プロセッシングを素早く設定するための強力なツールです。操作方法は共通で、各キーを押しながら別の項目を押すかタッチすると、操作が実行されます。



パラメーターをリセット
パラメーターを貼り付け
パラメーターをコピー

- + 前面パネルの **Sel** キー = 全ての関連プロセッシング (プリアンプ以外)
- + スーパーstrippの「**In**」キー = そのブロック (PEQ など) のみ
- + スーパーstrippの「**USB**」キー = プリアンプ
- + 「**Processing**」画面上部 = そのブロックのみ
- + 「**Processing**」画面上部のゲインノブ = プリアンプ
- + **チャンネル**のミックスセレクト (**Mix**) ボタン = そのチャンネルのミックスレベル、パン、アサイン。

この操作は、チャンネルの Link (リンク) と Ducker (ダッカー) の設定には影響しません。

Reset : 関連パラメーターを工場出荷時設定にリセットします。例えば、PEQ はフラット、Gate は Out、ミックスレベルは OFF、パンはセンター、アサインは ON になります。

Copy / Paste : Copy を押しながら、設定をコピーしたい項目を押すかタッチします。その後、Paste を押しながら、設定を貼り付けたいチャンネルの **Sel** キー、Select ボックス、または **Mix** ボタンを押すか/タッチします。設定を複数のチャンネルまたはミックスに素早く貼り付けることができます。例えば、CH2 の PEQ のみを CH3、CH4、CH5 にコピーするには、次のように操作します。

Copy を押しながら画面上部の CH2 PEQ を押し、
Paste を押しながら CH3、CH4、CH5 の **Sel** キーを押す

Qu-Pad アプリ : チャンネル名の設定、チャンネルのリンク設定、ライブラリーの呼び出しは、Qu-Pad アプリを使用して行うこともできます。

9.5 設定の保存

Scenes memories (シーンメモリー) : セッションに向けたミキサーのセットアップが完了したら「**Scenes**」画面を開き、現在のミックス設定に名前を付け、シーンとして保存します。

サウンドチェック、ショー、レコーディングセッションなどの後に、バンドごとにシーンに名前を付けて、**テンプレート**として保存しておけば、今後のセッションの**スタートポイント**として役立ちます。

Qu ミキサーには最大 100 個のシーンを保存できます。既存のシーンはコピーおよび消去が可能です。シーンをコピーするには、**Copy** キーを押しながらリスト内のシーンにタッチします。その後、**Paste** キーを押しながらコピー先のシーン位置をタッチすると、全てのシーンパラメーター、名前、およびフィルターがコピーされます。



リセットにタッチして長押し
1つ以上アサインされていると
ドットが点灯

Reset Mix Settings (セッティングのリセット) : 新しいミキシングセッションを開始できるようにミキサーを初期化します。全てのミキシングパラメーターがゼロ・リセットされ、**Safes** および **Global Filter** の既存設定が消去されます。シーン、ライブラリー、およびユーザープリファレンスには影響しません。

Scene Safes (シーン・セーフ) : この機能は、シーンがリコールされたときに、**選択したチャンネル、またはミックスのすべてのパラメーター**が変更されるのを防ぎます。これは、サウンドチェック後にシーンが保存され、保護されたチャンネルで行った変更は、後でそのシーンを呼び出しても変わらないことを意味します。固定された使用環境で変更したくないチャンネル、例えば BGM や MC などで使用できます。設定は「**Scenes**」 > 「**Safes**」画面で行います。デフォルトでは設定されていません。



パラメーターのグループ

Global Scene Filter (グローバル・シーン・フィルター) : 全てのチャンネルとミックスの、**選択したパラメーターのみ**、がシーンを呼び出した際に変更されないよう保護します。例えば、サウンドチェック後に行うソフトウェアまたはカスタムレイヤーへのアサインや、観客の入り具合に応じて行う GEQ などの LR ミックスプロセッシングの変更などを保護できます。設定は「**Scenes**」 > 「**Global Filter**」画面で行います。チャンネルタイプごとに、保護するパラメーターのグループを指定するためのボタンのグリッドが表示されます。デフォルトではカスタムレイヤーとソフトキーが保護されます。



Scene Filter (シーン・フィルター) : グローバル・シーン・フィルターに似ていますが、選択したパラメーターは一つのシーンだけ保護します。各シーン毎に選択 (フィルター) できます。これらは例えば劇場でキューによる変更をしたり、曲中でエフェクターを変更する場合などに強力なツールとなります。シーン・フィルターは個々でコピーや消去が可能です。デフォルトではカスタムレイヤーとソフトキーが保護されます。

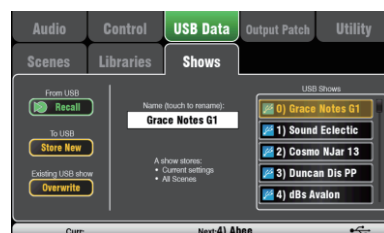
Show Memories (ショーデータのメモリー) : 「ショー」には現在のミックス設定、100 シーンのライブラリー、セットアップされた全データが保存されます。ショーはミキサーの内部には保存されず、Qu-Drive 端子に接続された USB ドライブに直接作成されます。

① USB キーに保存されたファイルの名前や場所を編集しないでください。

USB 経由でのデータのアーカイブ/転送 : USB キーや USB ドライブなどの USB デバイスを使用して Qu の設定をアーカイブしたり、Qu ミキサー間で転送したりすることができます。メモリーは Qu の全モデル間で互換性があります。まず、Qu ミキサーで USB デバイスをフォーマットする必要があります。それには「**Setup**」 > 「**Utility**」 > 「**Qu-Drive**」画面の「**Format**」機能を使用します。

① フォーマットを行うと、デバイス上の既存データが全て消去され、Qu ディレクトリが作成されます。Qu ミキサーでの USB デバイスのフォーマットは 1 回行うだけでかまいません。PC などを使用して USB デバイスの Qu のデータやファイル名の編集を行わないでください、Qu ミキサー専用としてご使用をお願いします。

シーン、ユーザーライブラリー、およびショーファイルの転送は「**Setup**」 > 「**USB Data**」画面で行います。



9.6 Qu-16 / Qu-24 / Qu-32 によるミキシング

緑色の **Sel** キーを押して、スーパーストリップのコントロール部分を使用すればチャンネルのプロセッシングやパンの調整ができます。

Processing キーを押し、画面上部にタッチすると、選択したチャンネルのプリアンプおよび各プロセッシングのパラメーターが画面に表示されます。

Layers キーを押すと、入力 / FX / マスターフェーダーストリップにアクセスできます。

両方を押すと**カスタムレイヤー**にアクセスできます。カスタムレイヤーには、入力、FX、マスター、DCA、MIDI ストリップを自由に組み合わせてアサインできます。用意されたラベルスペースを使用すればストリップ（各チャンネル）の名前をラベリングできます。

Routing キーを押すと、選択したチャンネルのルーティングパラメーターが表示されます。**Fn** キーを押すと、DCAグループ、MUTEグループのMasters（マスター）のアサインができます。

PAFL を押すと個々の信号をヘッドホンで検聴できるほか、そのレベルがメインメーターに表示され、確認できます。

青色の **Mix** キーを押すと、ミックスのセンド、ルーティング、プリフェーダー / ポストフェーダー設定を調整できます。

マスターストリップは選択されたミックスに従います。

① モニターまたはエフェクトレベルの調整が完了したら、メイン **LR** ミックスに戻すことを忘れないでください。



押したまま **Sel** を押す

各チャンネルを切り替える

全チャンネルを切り替える

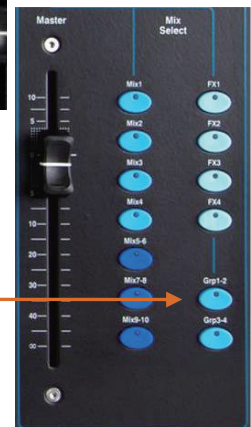
Pre/Post
(プリ / ポスト)
Assign
(アサイン)

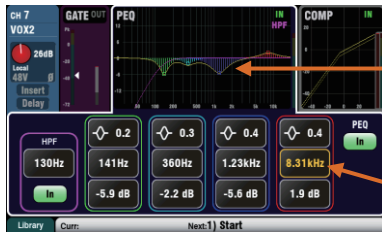
センス・オン・
フェーダー



グループミックスキーを押すと、そのルーティングをアサインしたり、マスターフェーダーやプロセッシングにアクセスしたりすることができます。チャンネルフェーダーは引き続き使用できる状態です。※ Qu-16 は Group (グループ) は装備されていません。

Grp キーは、グループモード設定時は紫色に点灯し、ミックスモード設定時は青色に点灯します。





Processing screen (プロセッシング画面) : この画面では選択したチャンネルやマスターのプロセッシングを行えます。

画面上部にタッチすると、下のセクションに関連パラメーターが表示されます。また、Copy / Paste / Reset キーを押しながら画面上部にタッチすることにより、さまざまな処理ブロックのコピーやリセットを素早く行うこともできます。

各パラメーターのボックスをタッチするとハイライト表示をします、値の変更はロータリーコントロールを使用します。

Fn キーを使用して、現在のプロセッシング画面の別ページを開くことができます。

Pre amp (プリアンプ) = ソース選択 (入力パッチ)

Gate, PEQ, GEQ, Comp = Library (ライブラリー)



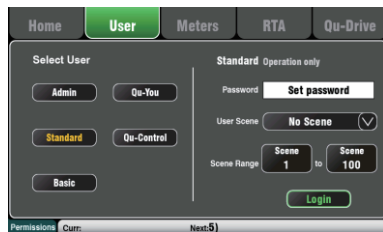
FX Parameters (エフェクターのパラメーター) : FX センドまたはリターンチャンネルを選択し、Processing (プロセッシング) 画面を開くとエフェクターのパラメータが表示され、操作ができます。さらに高度な多くのパラメーターを試してみたい場合は、「Expert」をタッチします。**Fn** キーを使用して「Library」ページを開くと、FX タイプの変更やプリセットの保存/呼び出しを行うことができます。



Routing screen (ルーティング画面) : この画面では1つのチャンネルから全てのミックスへの SEND を調整したり、ミックスのグローバル設定やルーティングオプションにアクセスしたりすることができます。全てのチャンネルから1つのミックスへの SEND を調整するには、**Mix** キーを使用します。

また、「Routing」画面で **Fn** キーを使用すると、マトリクスが選択されている時はマトリクス SEND、マトリクス以外が選択されている時は MUTE/DCA グループのアサインと名前の設定もできます。

9.7 セキュリティとユーザーアクセス権限



Qu には、無許可の機器やアプリへのアクセスからシステムを保護し、特定のオペレーターに与えられるコントロールの範囲を制限するいくつかの機能があります。たとえば、レギュラーのイベントオペレーターが決まった構成を変更できないようにしたり、技術者ではないバーのスタッフが BGM とページングだけを簡単にコントロールできるように制限する事ができます。

Lock Surface (ロック・サーフェイス) : 「Home」画面にある、このボタンを使用すると、オペレーターがミキサーから離れている間にサーフェイスのコントロールを保護できます。パスワードが設定されている場合、ロックを解除するにはパスワードを入力する必要があります。

User Permissions (ユーザー権限) : 3 種類のユーザープロファイルが用意されています。

Admin : 全アクセス権限があります、ユーザー権限の設定とパスワードの設定を行う事もできます。

Standard : ライブミックスを操作できますが、システムセットアップ機能からはロック・アウトされます。

Basic : フェーダーとミュートのみを操作でき、カスタムレイヤーのみに制限されているため特定のチャンネルからロック・アウトされません。

3 種類のユーザーごとにパスワードを設定できます。パスワードは、ログイン時およびサーフェイスロック解除時に入力する必要があります。Qu-Pad アプリは同じユーザー権限に従います。Admin ユーザーは、Qu-You および Qu-Control ユーザーのパスワードを個別に設定可能で、また Standard ユーザーと Basic ユーザーに対して、シーンの範囲とログイン時のシーンの設定も可能です。

9.8 USB レコーディング／プレイバック



USB B ストリーミング：Apple® Mac または Windows® PC を背面パネルの USB B ポートに接続すると、最大 32 チャンネルのオーディオの双方向ストリーミングと MIDI メッセージの送信が可能です。

ALLEN & HEATH **DAW Control ドライバー** (Mac 専用) をダウンロードすると、Qu MIDI Strip メッセージを HUI または Mackie Control プロトコルに変換できます。標準 MIDI メッセージを PC にストリーミングするには、ALLEN & HEATH **Qu Windows ドライバー** をダウンロードしてください。

Qu の MIDI チャンネル番号の設定は「**Setup**」>「**Control**」>「**MIDI**」画面で行います。

レコーディングソースをパッチ



USB ドライブへの Qu-Drive ダイレクトレコーディング：前面パネルの Qu-Drive ポートに接続した USB ストレージデバイスに、**ステレオ**または **18 トラックのマルチトラック**で直接録音ができます。

※ Qu-Drive レコーディングには、高速のサステイン転送レートに対応した USB ストレージデバイスが必要です。全ての USB デバイスで完全な性能が保証されるわけではありません。詳細については、ALLEN & HEATH ウェブサイトの Qu ナレッジベースに掲載されている文書「**Understanding Qu-Drive and USB**」を参照してください。録音した USB ストレージデバイスは Qu ミキサーのみで使用し、他の用途には使用しないでください。

Qu ミキサー用での USB デバイスのフォーマット：録音する前に「**Setup**」>「**Utility**」>「**Qu-Drive**」画面で行います。ドライブの内容が消去され、Qu ディレクトリ構造が作成されます。

録音ソースのパッチ：「**Setup**」>「**I/O Patch**」>「**USB Audio**」画面を使用します。ロータリーは 18 トラックそれぞれに使用できます。**Fn** キー「+1 (加算)」を使用して、トラックをすばやく移動できます。チャンネルソースは Insert Sends か Direct Out を選択してください。

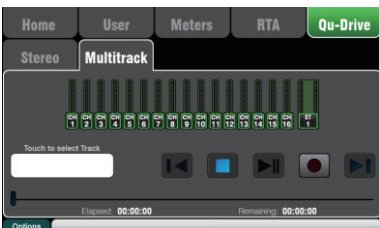
ステレオ録音は、マルチトラックの CH17 / CH18 と同じソースを使用します。

ステレオ／マルチトラック録音：「**Home**」>「**Qu-Drive**」画面を使用します。録音すると、USB ドライブ上の Qu ディレクトリ内に WAV ファイルが作成されます。

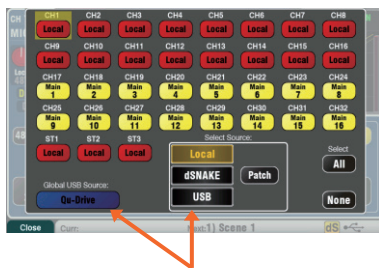
ⓘ USB デバイス上のファイルの名前や内容を編集しないでください。コンピューターでファイルのコピーまたは削除を行った場合、エラーを回避するために、次のセッションで使用する前に Qu ミキサーでデバイスをフォーマットし直すことをお勧めします。

ステレオ／マルチトラック再生：「**Processing**」画面の「**Preamp**」ページを使用します。チャンネルのソースとして「**USB**」を選択し、グローバル USB ソースとして「**Qu-Drive**」を選択します。

Soft Keys (ソフトキー) によるトランスポートコントロール：「**Setup**」>「**Control**」>「**SoftKeys**」画面を使用して、ステレオ／マルチトラック録音または再生のトランスポートコントロールをアサインすることが可能です。例えば、他のミキシング機能の使用中に録音の準備、開始、停止を行うことができます。

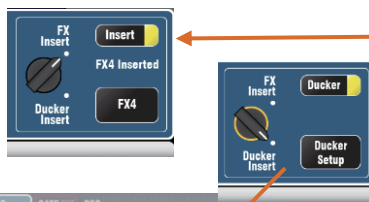
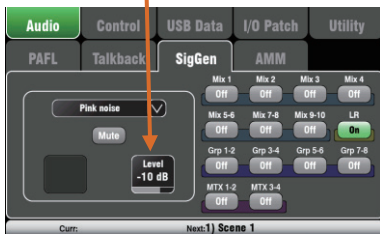


レコーディングソースをパッチ



9.9 その他の機能

レベルを下げた状態から開始



シグナルジェネレーター（信号発振器）によるスピーカーのテスト：全ての機器の配線が完了したら、アンプとスピーカーのレベルが正しく設定されていることを確認します。システムの電源を正しい順序で入れます。

① 最初にミキサー、最後にアンプ/スピーカーの電源を入れてください。終了時は逆の順番に電源を OFF にします（アンプ/スピーカーから OFF にする）。

ピンクノイズはスピーカーのテストに最適なソースで、オクターブごとに同じエネルギーを全周波数帯域にわたって生成します。全てのスピーカードライバーの機能をチェックしたり、位相と極性の問題がないか聴感確認や測定に使用できます。

LR およびモニター用のマスターフェーダーを通常の位置に設定します。「Setup」>「Audio」>「SigGen」画面を開きます。「Pink Noise」を選択し、レベルが完全に OFF であることを最初に確認してください。LR を選択し、SigGen レベルを徐々に上げてスピーカーから出るノイズを確認してください。モニター用のスピーカーも同様の方法でテストできます。

FX のインサート：内蔵 FX (リバーブ、ディレイ、モジュレーション) を入力チャンネルまたはミックスマスター信号パスに直接インサートできます。FX 画面の D/W コントロールを使用して、ドライ / ウェットのバランスをとります（ドライ：原音のみ / ウェット：エフェクター音）。

Ducker (ダッカー)：入力チャンネルまたはグループにダッカーをインサートできます。いずれかのチャンネルの信号をトリガーとして使用し、その信号がアクティブな時に他のチャンネルを自動的にダッキング（減衰）させることができます。例えば、呼び出しマイクをトリガーとして使用して BGM チャンネルをダッキングする、ページング的な動作が可能です。ダッキングとリカバー（レベル回復）の速さを調整します。

オートマッチック・マイク・ミキシング (AMM)：この機能はテーブルを囲んで複数のマイクを仕様する会議やセミナーなどのスピーチ用途に有効です。Qu の AMM は、それらのマイクのレベルを自動的に下げて明瞭度を高めると同時に、多数のオープンマイクによるフィードバック（ハウリング）のリスクを低減します。

AMM をセットアップするには、まずミックスのマスターフェーダーを下げた状態から始めます。PAFL を使用して各マイク信号をチェックし、マイクから予想される距離で話した時にメーターが適正なレベルを示すように、プリアンプゲインを設定します。「Setup」>「Audio」>「AMM」画面を開き、関連するマイクチャンネルを ON にします。フェーダーを「0dB」ポジションにします。ミックス・マスターフェーダーを徐々に上げます。他のソースもミキシングする場合は、スピーチ用チャンネルのマスターとして DCA グループやオーディオグループを使用する事をおすすめします。

AMM の詳しい仕組みと使用方法については、『Qu シリーズリファレンスガイド』を参照してください。

モニタースピーカーのハウリング防止：Qu-Pad アプリを使用すると、ステージ上のボーカルマイクの前に立って、iPad を使用してボーカルをモニタースピーカーに送り、ミックス GEQ を使用してハウリングを防止することができます。

モニターミックスのマスターストリップの Mix ボタンにタッチします。そのストリップがそのモニターミックスのマスターになります。そのストリップにタッチして選択し、「GEQ」タブを開きます。PAFL ボタンにタッチして信号を RTA に送ります。フェーダーストリップでそのモニターミックスに信号を送ります。モニターから声が聞こえるまで、ボーカルチャンネルのセンドフェーダーを上げます。フィードバックしたハウリングオンが聞こえるまでフェーダーを慎重に上げます。

フィードバックが発生している周波数は、GEQ の上にある RTA ディスプレの赤いドットによって示されます。ハウリングが止まるまでその帯域の GEQ スライダーを数 dB 下げます。再び、次の周波数のハウリングが聞こえるまでボーカルレベルを徐々に上げます。全体的な音質低下を避けるために、この方法であまり多くの周波数のレベルを下げないようにしてください。

10. ミキサーのリセット

Qu の設定を慣れているスタートポイントにリセットするには、2 通りの方法があります。

10.1 Reset Mix Settings : ミキシングのスタートポイント



リセット機能の詳細については、『Qu シリーズリファレンスガイド』を参照してください。

「**Scenes**」画面のこのボタンにタッチすると、ミキサーは直ちに慣れているミキシングスタートポイントにリセットされます。この方法では、ショーの前、または別のユーザーが終了した後に、プロセッシング、ミックス、パッチをリセットする簡単な方法をご紹介します。

シーンに保存可能なパラメーターは全て工場出荷時設定にリセットされ、新しいセッションの準備が整います。

現在の設定を取っておきたい場合は、ミキサーをリセットする前にシーンとして必ず保存してください。

このリセットはシーンに保存されるパラメーターにのみ影響し、ミキサーに保存されている既存のシーンやライブラリーには影響しません。

❶ このリセットは、グローバルフィルターおよびセーフ設定の影響を受けず、フィルターをリセットし、設定済みのチャンネルセーフを消去します。

「**Reset Mix Settings**」ボタンを 1 秒間長押しすると、確定画面が表示されます。

独自のスタート設定の作成：まずミキサーをリセットし、パッチ、レベル、およびパラメーターを必要に応じて編集します。名前を付け、シーンとして保存します。

10.2 システムハードリセット : 全消去



ミキサーの起動中に 5 秒間長押し



Qu ミキサーの設定およびメモリーを完全にリセットする必要がある場合、ハードリセットが可能です。この操作を実行する状況としては、他の人にミキサーを渡す前に設定された内容を全消去する場合や、Qu システムの問題が疑われる場合、システムをクリアするために行います。

ショーまたはサウンドチェックの開始前にミックスパラメーターをリセットするには、「Scene」または「Reset Mix Settings」機能を使用してください。

❶ ハードリセットでは、現在の設定が全て工場出荷時設定にリセットされ、全てのシーン、ユーザーライブラリー、ユーザー権限、およびパスワードが消去されます。

まず、アンプやパワードスピーカーを含め、システムの電源を OFF にしてください。

Qu ミキサーのハードリセット：タッチスクリーンの「Reset」キーと「Setup」キーを同時に押しながら、ミキサーの電源を ON にしてください。Qu の起動中は少なくとも 5 秒間はキーを押し続け、キーを放してください。

各種 Qu ハードウェアおよび操作機能の詳細については、『Qu シリーズリファレンスガイド』を参照してください。

ALLEN & HEATH

- この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。
- 商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。
- 掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。
- 記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。



ヒビノインターサウンド株式会社

〒105-0022 東京都港区海岸2-7-70 TEL: 03-5419-1560 FAX: 03-5419-1563

E-mail: info@hibino-intersound.co.jp <https://www.hibino-intersound.co.jp/>

2023年5月版